

豊橋の中1死亡ボート事故

「市は謝罪を」遺族要求

記 西野 友章

2010年6月に浜名湖で起きたボート転覆事故で、亡くなった豊橋市立章南中学校の1年、西野花菜（当時12）の遺族である私たちが16日、事故の責任は学校を設置した市にもあるとして、佐原光一市長に謝罪を求め、申入書を提出しました。謝罪がない場合は、法的措置を検討します。

今年1月に国の運輸安全委員会が事故の調査結果を発表しました。これを受け、私たちは「市にも法的責任があったと申し入れました」

申入書によると、ボート訓練は「学校の正課の授業であり、教育活動そのもの」として、学校に安全配慮義務があったと主張。ボートが出航した際は1時間24ミリの「土砂降り」の雨だった中で、港で見送っていた校長が中止を求めるときだった、など9項目の義務違反を指摘しました。

また、訓練を実施した「静岡県立三ヶ日青年の家」の過失は「市の過失と同視される」としています。

市はこれまで、『三ヶ日青年の家側』責任がある」との姿勢を崩していません。佐原市長は「親族を亡くされた気持ちをしっかりと踏まえて対応したい」と述べました。

「学校側にも責任」

「施設に丸投げしていたから学校側に責任がないというのはおかしい」。この訴えは、塩から1年9か月を経ても届いていないと私たちは感じています。

豊橋市は「施設のプロに任せる中で、事故は起きた」と一貫して主張しています。

市教育委員会は「西野さんの思いを受けて誠意をもって対応してきた」と話します。校外学習の安全管理体制についての指針を作成

し、昨年4月からホームページ（HP）で公表。市民から意見を募集しています。

今年1月、学校の責任は触れていない運輸安全委員会の調査結果が公表された後、市教委はこの方針を見直す方針を示しました。HPに載せた指針には、市民からの意見がこれまで1件も寄せられていません。

申し入れ後の会見で私は『三ヶ日青年の家』と静岡県は再発防止もできることを率先してやっているが、豊橋市は全然やっていない」と憤りました。「娘は授業中に先生の言われた通りにして命をなくした」。教育現場は責任をどう考えているのか。学校設置者の同市の見解を問うために市長に謝罪を求めました。

私は「教育現場がやるべきことをやらなかったから娘が死んだことをわかってほしい」と話し、市教委の対応については「どこを反省して今後どうすべきかが伝わってこない」と不満を募らせました。「責任を認めて教育現場がスキルを上げないと、再発防止はできない。何のために娘が死んだかわからない」と訴えました。

【2012年3月17日朝日新聞参照】



「豊橋は謝罪を」

遺族、市長に申し入れ

記 西野 友章

私たちは16日、豊橋市が遺族に謝罪するよう求める申入書を佐原光一市長に提出しました。

市役所で記者会見した私は、悪天候にもかかわらず学校がボート訓練の中止を求めなかった点を指摘。同乗した教諭が船内にたまった雨水を船外に掻き出すなど生徒の安全を守るための義務を果たさなかったと断じました。学校の設置者である豊橋市は、浜名湖で実際の訓練をした三ヶ日青年の家や静岡県教育委員会などとともに、賠償責任を負うと主張しました。

私は「学校の授業で何の落ち度もない花菜が命を落とした。豊橋市は組織として謝罪してほしい」と話しました。市の謝罪がない場合、民事訴訟を検討することも示唆しました。佐原市長は「お悔やみ申し上げるが、市は事故を起こした静岡側や教員の任命権がある県教委と立場が違う。申し入れをよく読んで対応したい」と話しました。

【2012年3月17日中日新聞参照】



豊橋市に謝罪求める

遺族「授業中に命なくした」

記 西野 友章

静岡県の浜名湖で10年6月起きた豊橋市立章南中1年生の手こぎボート転覆事故で亡くなった西野花菜(当時12)の父である私は16日、豊橋市の佐原光一市長に、市としての責任と謝罪を求める申し入れをしました。

私は「娘は学校の授業の中で命を亡くした。(市は)なぜ命を守れなかったのか、守るために何をしたのか、という思いがある。市として謝罪し償ってほしい」と訴えました。1か月以内に文書で回答を求めました。

申し入れ書はボート転覆事故を想定して危険を回避する義務が学校にあったと指摘。校長と教諭らは、天候などからボート訓練を中止しなかったことや、滞留水の排水指示、事前の乗船者名簿の提出などにおいて、安全配慮義務違反があったと指摘しました。訓練実施会社の過失は市の過失とみなされ、会社の責任は市の責任となるとしています。

申し入れ書提出後の記者会見で、私は「要求が満たされない場合は、法的な場所で第三者に判断してもらおうしかない」と訴訟を視野に入れて、ことを明らかにしました。

【2012年3月17日毎日新聞参照】

